

クイズ大会安全対策のディスカッション 議事録兼事例対策集

AQL 執行部

第1回	2018年6月1日付け	P1
第2回	2019年6月1日付け	P4
第3回	2020年6月1日付け	P6

<巻頭言>

これまで本マニュアルは「大会中のケガ、事故」などを念頭に議論してきました。しかし、2020年に入り、世界は一変しました。

2020年初頭に始まった新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的パンデミックは、我々の生活様式に大きな影響を与えています。感染拡大が落ち着く時期こそあれ、ウイルスは即座に消滅するようなものではなく、今後社会として長く付きあっていく前提で対策を実施していく必要があると考えます。

AQLは「社会にも認められる大会」を目指すことを掲げており、公的機関から要請がある限り感染拡大を防ぐ責務があると考えています。

クイズ大会は通常通りに開催すればいわゆる「3密」「接触感染」を避けられません。その中で、感染リスクを避けながら開催できるよう、2020年度は「コロナ禍でのクイズ大会開催」について議論しました。

AQLが本気で進めてきた安全対策は、新たなステージに突入したと考えます。クイズ大会の場で「無事故」「無災害」を達成すると共に、「クラスター感染」を起こさないよう、皆さんで今後も考えていきましょう。

2020年6月1日
AQL代表 市川 尚志

●第1回（2018年）

番号	検討日 提案者	検討場面	対応	類似の 事例
2018-1	2018.6.1 市川尚志	早押し機のコードにつまずいて転倒・転落し、負傷する。	コード類は人が通らない場所に配置し、通行禁止とする。	
2018-2	2018.6.1 伊藤倫	機の設営時に指を挟む（折りたたみ机、重い機の運搬）	<ul style="list-style-type: none"> ・キャスターのない机を運ぶ際は必ず2人1組で持ち運び、互いに声をかけあう。 ・設営前に地区代表より注意喚起実施 	
2018-3	2018.6.1 片岡桂太郎	雨天時などに階段や廊下で滑って転倒・転落する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に滑りやすい場所の情報を収集し、共有・周知する。 ・特に危険な場所には誘導員を配置することも検討する。 	
2018-4	2018.6.1 徳久倫康	クイズ中に机を押してしまい、転倒や転落、落下物によって負傷する。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャスター付きの机は、設営時にストッパーがかかっているか確認する。 ・舞台上に机を設置する場合は、舞台端から十分な距離を取る。 	
2018-5	2018.6.1 市川尚志	大きな物を視界不十分なまま運搬し、構造物に接触したり段を踏み外したりして負傷する。	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなもの、重いものは複数人で声掛けしながら運搬する。 ・必要に応じて作業員とは別に誘導員を配置する。 	
2018-6	2018.6.1 市川尚志	パーティションで部屋を仕切るときに、パーティションを勢いよく動かしてしまい、挟まれて負傷する。	<ul style="list-style-type: none"> ・パーティションは1人が1枚ずつ、始動開始から固定までを全て行う。 ・前方を確認しながら両手できちんと握って動かし、突放（投げ渡し）は禁止。 	

番号	検討日 提案者	検討場面	対応	類似の 事例
2018-7	2018.6.1 Taguchi Wataru	椅子や机が収納されている重たい台車にひかれ、足を負傷する。	<ul style="list-style-type: none"> ・台車は、周囲に人がいないことを確認して移動させる。 ・人がいるときは、周囲に声掛けを行い、作業員とは別に誘導員を配置する。 	
2018-8	2018.6.1 岩井雅史	非常時以外開放不可の窓を開け、それに気づかず転落する。	<ul style="list-style-type: none"> ・窓開閉の可否を、全参加者に明示する。 ・空調を積極的に利用する。 	
2018-9	2018.6.1 松村敬光	目の不自由な参加者が会場内を歩行時、躓いて転倒し負傷する	<ul style="list-style-type: none"> ・エントリーの際に介助の可否や配慮が必要な点を連絡いただき、事前に担当（スタッフ側か、参加サークル側か）を明確にする。 ・会場のバリアフリーの度合いを確認し、不安箇所があれば参加者側に事前に注意喚起する。 	
2018-10	2018.6.1 春日誠治	大会中、参加者・スタッフが心停止状態に陥る。	<ul style="list-style-type: none"> ・会場内の AED 設置場所を確認し、周知する。 	
2018-11	2018.6.1 市川尚志	早押しに興奮しすぎて、正解した時ジャンプして後ろの壁に頭をぶつけ大けがをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・早押し機の周りにはゆとりを持ってスペースを作る ・あまりに入れ込みすぎている参加者には、司会などが随時声かけをする。 	
2018-12	2018.6.1 市川尚志	過度の集中、興奮、緊張、水分の欠乏で脱水症状や痙攣等を引き起こす。	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な休憩時間の確保と、冷房環境下でもこまめな水分補給の声掛けを行う。(特に夏季) 	2019-5
2018-13	2018.6.1 市川尚志	不審者の侵入・乱入	<ul style="list-style-type: none"> ・団体受付と見学者の確認を徹底し、不審者が会場に入らないようにする。 	
2018-14	2018.6.1 志村厚樹	会場に関わる AQL 以外の情報の流出(例 :会場とした学校の掲示物が写真に写りこむ等)	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者侵入対策を徹底した上で、参加者にはインターネットにアップロードする写真には参加者以外の情報が写り込まないように注意するように呼びかける。 	

番号	検討日 提案者	検討場面	対応	類似の 事例
2018-15	2018.6.1 松村敬光	歩きながらスマートフォンを操作したため、設置物に 躓いて転倒したり構造物に接触したりして怪我をす る。	歩きながらスマートフォンを操作・注視しないよう、 参加者及びスタッフに注意喚起する。	
2018-16	2018.6.1 小鍋祐輔	正誤判定などで揉めて言い争いになり、一方ないし双 方が暴力行為に及び怪我をする。	・機嫌が悪い人には、まず冷静になるようにスタッフ が促す。 ・万が一に備え、各部屋に社会人のスタッフを常駐さ せるようにする。	
2018-17	2018.6.1 片岡桂太郎	早押し機の漏電・発火（原因は本体の不具合、漏電等 による供給電圧の異常など。家庭用電源でも感電すれ ば死亡に至りうる電圧）	・コンセント部分に漏電ブレーカーを使う ・早押し機から異音・異臭・異常な発熱を感知した場 合、静かに離れる。その際、スタッフが電源コードを 抜く	
2018-18	2018.6.1 能勢一幸	大会の司会・アシスタントがステージから落ちてしま う（奥行きがないと早押し機コードなどの関係でステ ージの縁に立たざるを得ない）	・司会・アシスタントの安全な立ち位置を準備段階で 確保する。 ・ステージ上にこだわらず、観客席からの進行も検討 する。	

●第2回（2019年）

番号	検討日 ----- 提案者	検討場面（★は当大会で実際に起きたもの）	対応	類似の 事例
2019-1	2019.4.7 ----- 越島傑	★妊娠中の参加者がいたが、申し出が無かったため特段の配慮を行えなかった。	妊娠や障害等配慮が必要な方のために、部屋割や組み分けを変更しうることを事前に周知する。 配慮についての申し出があった場合、公開可否等含めて確認の上、部屋割の見直し等を実施する。	2018-9
2019-2	2019.4.7 ----- 小鍋祐輔	★ある参加者が、高校生を中心に自家用車への同乗を募集していた。	・サークルのメンバーが学生を車に乗せて会場まで行くのは、可能な限り避ける。 ・やむを得ず乗せる場合、保護者からの同意をもらうこと（直接会うことが望ましい）。 ・「安全速度を守る」「定期的に休憩をとる」など、事故が起こらないよう万全の対策をとること。	2019-3
2019-3	2019.4.7 ----- 西駿太郎	★参加者が運転していた車両（8人乗りワンボックス・レンタカー）が、地下駐車場に駐車しようとした際に壁面に接触し、角部保護ラバーを擦損した。	直ちに施設管理者に報告し、現場確認を依頼。また、当事者は警察、レンタカー会社、自動車保険会社にも連絡。施設側への賠償は無し。車両損害は加入していた保険で完全対応。	2019-2
2019-4	2019.4.7 ----- 西駿太郎	★大会前夜、地域代表がある参加者の「発熱（38度超）した」旨ツイートをキャッチ。体調をDMで聞き取り、大会参加を断念するよう勧告したが、参加を希望したため翌朝の検温を指示した。 翌朝の検温で36度台前半まで解熱している旨報告あったことから、参加を許可。西は体温計を会場に持参し、適時の検温を指示したところ、14時頃に38度を超えた。	参加予定企画が終わっていなかったが、即時帰宅させた。	

番号	検討日 ----- 提案者	検討場面（★は当大会で実際に起きたもの）	対応	類似の 事例
2019-5	2019.4.7 ----- 西駿太郎	★ステージ上でのクイズを終え、段を降りるところで貧血に起因する立ちくらみで転倒。意識はあるものの呼吸がやや苦しそうな様相。また、顔面を打ち付けて出血。 参加者自身が貧血気味だったことを差し引いても、詰め込みすぎのスケジュールに起因する長時間の緊張が遠因の可能性が否めない。	・会場外備付の布担架で会場外に搬出。救命講習受講者や医学部生を中心に対応し、同伴者とともに帰宅した。医療機関受診無し。 他の参加者には当事者の状況を説明し、10分休憩の後に再開した。 今後は余裕のあるスケジュールが必要。	2018-12

●第3回（2020年）

今回は、新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大していることを受け、「AQLにおける感染症対策」を主題とした。

なお、2020年5月末現在、同感染症の予防には「手洗いやアルコールによる手指消毒の励行」「マスクの着用をはじめとした飛沫予防」「密集・密閉・密接場面の回避」等が有効であるとされている。

番号	検討日 提案者	検討場面	対応	類似の 事例
2020-1	2020.6.1 市川尚志	マニュアル化するうえで、呼びかけのキャッチフレーズが欲しい。	「早押機にも名札にも、ウィルスが付着している前提で考えよう！」	
2020-2	2020.6.1 田中克実	下記3点を事前に準備する。 ・ AQL ガイドライン ・ 会場がガイドラインに即して運営されているかのチェックシート ・ 参加者がガイドラインに即して参加されるかのチェックシート	それぞれ作成し、運用する。 https://www.quizagl.com/aql2019zenaddrules/	
2020-3	2020.6.1 西駿太郎 綾 take	下記に該当する人は大会に参加してはいけない。 ・ 新型コロナウイルス感染症治療中の者（無症状陽性含む） ・ 同感染症の治療後または濃厚接触者として健康観察の対象となっている者 ・ 外国から帰国・入国後2週間以内の者 ・ 体調が優れない者（解熱剤を服用しなければ37.5℃以上の熱がある等） また、見学も原則として不可とする。	学校の顧問や保護者は例外として見学可	2019-4

番号	検討日 提案者	検討場面	対応	類似の 事例
2020-4	2020.6.1 小鍋祐輔	公共交通機関の使用を控える。		2019-2 2019-3
2020-5	2020.6.1 市川尚志	<ul style="list-style-type: none"> 全参加者、自己負担でマスクを持参、着用する。 全参加者、試合間及び何かに触れた（エレベーターのボタン等）後は手洗いを励行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ハンカチの持参を推奨。 階段の使用を推奨（手摺は要注意） 	
2020-6	2020.6.1 奥友浩 鈴来直人	<ul style="list-style-type: none"> 問い読みがマスクをして読むことを前提として、声が聞こえにくくなることを懸念。 会議室など、マスクでの問読みが難しい場合は問読みと参加者の間にアクリルボードを置く。 	<ul style="list-style-type: none"> マイクの手配または拡声器を導入する。 価格や保管場所確保等の面からボード設置が難しい場合は、問読みの目の前に早押し機を設置しない。 	
2020-7	2020.6.1 市川尚志	各チーム、可能な限りアルコールティッシュを持参し、試合前に自分のチームが使う早押し機を拭く。	持参できないチームは事前申告。大会側でまとめて購入する。費用は「一般の部」は参加費に加算、「ジュニアの部」は大会側で負担するか一般の部から流用	
2020-8	2020.6.1 市川尚志	クラスター感染発生の一条件「密閉」を避けるため、可能な限り窓と扉を開放したままにする。触ったら手を洗う。	問題が隣の部屋に聞こえないよう、隣同士で同じリーグの試合を行わないよう工夫する。	
2020-9	2020.6.1 綾 take 市川 尚志 岩井 雅史	<ul style="list-style-type: none"> 参加者間、特に解答者間の距離を離す。 「早押しボタン共有」は、2名の距離が至近になり、接触や飛沫による危険が高くなるため禁止する。 	<ul style="list-style-type: none"> 可能な範囲で延長コードを活用する。 狭い舞台上等、距離の確保が難しい場合は衝立（透明である必要無し）を用意する。 開催責任者は、用意できる早押し機のボタン数をあらかじめ把握し、1チームの人数上限を設定する。 	
2020-10	2020.6.1 市川尚志	大会後に感染が判明した時は、直ちに AQL スタッフに連絡する。	「大会に迷惑がかかる」などとは考えない。	